

2023 年度 地球環境基金 助成金交付要望書（抜粋）

日本水循環文化研究協会

活動メニュー	ひろげる活動	活動年数	3年
タイトル	バングラデシュ都市貧困層コミュニティにおける衛生管理を担う住民組織の能力形成		
活動概要			
<p>都市貧困層コミュニティにおいて、持続的な衛生環境を形成するためには、住民一人ひとりが給水設備や共同トイレといった関連施設を適正に使用し、管理を担うコミュニティ組織（以下 Community-based Organization : CBO という）による自立的管理が適正に果たされる必要がある。提案団体は、先行活動において、コミュニティ住民の衛生行動の定着により、施設の適正利用を促し、女性メンバーを主体に CBO を結成してきた。しかしながら、想定される問題発生時の対処の仕方等が明確化されず、現状では、外部からの支援無しには CBO の持続的運営は難しいと考えられ、CBO の能力形成が課題となっている。</p> <p>提案活動では、これまで実践対象としてきたコミュニティにおいて啓発活動、施設改善方針、CBO 結成といった一連の介入プロセスをレビューし、必要な場合にはこれらを見直したうえで、その普及を図るとともに、個々のコミュニティ組織の特性に応じた運営規則を定め、CBO の基盤を充実させる。さらに、各コミュニティの CBO 単位での個別の管理に伴う弱点を克服し、都市貧困層コミュニティの衛生環境の持続可能性を向上するため、CBO のネットワーク化による協力関係の形成について、実践を通して、その有用性を検討する。</p>			
上位目標			
都市貧困層コミュニティにおいて、安全な飲料水供給と衛生環境を自立的に維持する能力が向上し、下痢症リスク低減に寄与する。			
アウトカム（上位目標の実現に寄与する望ましい成果）			
<p>1) 衛生行動が定着し、水供給ならびに衛生関連施設の不適切な利用が大幅に減少する。</p> <p>2) コミュニティ組織による安全な水供給、衛生環境の自立的管理レベルが向上する。</p>			
活動内容			
活動1：都市貧困層コミュニティにおける安全な給水と衛生設備の普及			
1-1 QOLにおける「水と衛生」の優先度の把握／先行活動における啓発活動の有効性把握			
1-2 衛生行動を考えるワークショップⅠの実施			
1-3 衛生行動の定着に必要な施設の更新・設置に関するワークショップⅡの実施／更新・設置工事			
1-4 衛生行動に関する意識調査、施設の利用状況の把握			
1-5 ワークショップ教材の編集、介入プロセスのマニュアル作成			
活動2：コミュニティ組織による安全な給水と衛生設備管理の実践			
1-1 自立的管理に向けた課題抽出、既存 CBO の運営改善、CBO 組織化支援への反映			
1-2 CBO の組織化支援			
1-3 給水設備ならびに共同トイレの持続可能性向上のためのワークショップⅢの実施			
1-4 CBO による施設及びその利用状況のモニタリング支援			
1-5 給水設備ならびに共同トイレ管理マニュアル作成			
活動3：コミュニティ組織のネットワーク形成			
1-1 CBO が単独で管理を行う場合の課題抽出			
1-2 ネットワーク化に必要な前提条件整理			
1-3 ネットワーク形成に関するワークショップ開催			
1-4 ネットワーク活動の試行、効果の検証			
1-5 協同組織形成の可能性、将来の発展性に関するセミナー開催			